

## 当院における肝臓病教室の取り組みと薬剤師のかかわり

薬剤部 松浦 千恵, 橋元 誠

当院では、病気の完治が困難であっても高いQOLを維持した生活を過ごせるように指導・援助するという目的で、2010年より肝臓病教室を年2回のペースで開催している。教室運営には医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士・事務職員でチームを構成し、それぞれのスタッフが順番に担当し情報提供を行ってきた。その中で薬剤師は、肝臓病で使用される薬剤について担当している。2014年3月開催の教室では新規C型肝炎治療薬シメプレビルをテーマに講義した。普段、外来患者と時間をかけて接することが少ないため、教室を通して薬剤情報を提供できる貴重な機会であった。

keywords：肝臓病教室，インターフェロン，シメプレビル

### 1. はじめに

当院ではチーム医療の活動を通して、年2回の糖尿病教室や、2014年4月からは週1回の少人数制の心不全教室を開催し薬剤師も参画している。今回はこれまでに6回開催した肝臓病教室における薬剤師のかかわりについて報告する。

### 2. 取り組み内容

まず当院での肝臓病教室の活動は4年前に始まった。そのきっかけは、「患者さんやご家族の方と肝臓病について一緒に学習できる機会はないだろうか」という思いからであり、それからさまざまな職種の代表が集まり、どのような教室にしていくか話し合いを重ねた。そして、「病気の完治が困難であっても高いQOLを維持した生活を過ごせるよう指導・援助する」をテーマに取り組むことになった。患者には、教室参加を通して、自身や家族の病気について理解を深めてもらい、また、他の人の治療体験などをじかに聞く機会を設け、不安の軽減につなげてもらおうと考えた。一方、医療者側にとっても患者が医療者に望んでいることは何かを知るチャンスであり、また、病気について一緒に考えることで一体感が生まれ、日々の診療が行

いやすくなるのではないかと考えた。

教室開催に向けて、他施設への見学や書籍<sup>1,2)</sup>を参考に準備した。患者ニーズを把握するため通院患者にアンケートをとり事前調査も行った。アンケート実施時期は約1.5カ月で、肝臓外来または消化器内科外来に通院中の患者57人を対象に行った。その平均年齢は61歳で、男性25人、女性32人。回答者は、通院期間が5年以上の患者が2/3を占め、自身の病気や治療について理解している、またはだいたい理解していると回答した患者があわせて8割程度であった。一方、最近治療を始めた方や、病気や治療に対して理解が不十分だと回答された方もいた。また、どのような内容を知りたいかのアンケートでは、普段の診察では詳しく聞けない合併症の話や食事療法、薬物療法、運動療法、医療費助成についてなどさまざまな意見があった。これらの結果も踏まえ、毎回テーマを設定し年2回のペースで開催した。

開催前には、病院ホームページや院内フロア、患者送迎用バスにポスターを掲示し、また看護師が外来や入院患者へ案内を行い参加を募った。これまでに、医師による肝炎や肝硬変・肝がんについての講演のほか、薬剤師による肝臓病で使用される薬剤について、管理栄養士による肝

臓にやさしい食事について、理学療法士による最適な運動について、臨床検査技師による血液検査の数値の見方について、事務職員による肝炎治療に対する医療費助成について情報提供を行った。これまでの開催テーマを以下の表1に示す。

表1. これまでの開催内容

回数	開催日	テーマ
1	2010年10月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C型肝炎の最近の話題</li> <li>・肝臓にやさしい食事</li> <li>・肝臓治療に対する医療費助成について</li> </ul>
2	2011年6月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝硬変・肝臓がんについて</li> <li>・肝臓病の薬について</li> <li>・肝臓にやさしい食事・夜食療法 (LES食) について</li> </ul>
3	2011年12月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C型肝炎とB型肝炎</li> <li>・ペグインターフェロン・リビリン療法について</li> <li>・血液検査で肝臓病はここまで分かる</li> </ul>
4	2012年6月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウイルス性肝炎</li> <li>・肝臓病にやさしい食事～鉄制限～</li> </ul>
5	2013年11月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肥満と肝臓病</li> <li>・肝臓病にやさしい食事～脂肪肝にならないために～</li> <li>・肥満予防のための運動について</li> </ul>
6	2014年3月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C型肝炎と治療について</li> <li>・ソプリアードを用いた3剤併用療法について</li> <li>・肝炎治療に対する医療費助成</li> </ul>

図1は2014年の3月に行った第6回目の教室の様子で、医師、薬剤師、事務職員が担当した。薬剤師からはシメプレビルを用いた3剤併用療法について紹介した。これまでは、肝臓病に用いる薬剤の全般的なことから、特にC型肝炎の治療に関する内容について情報提供した。C型肝炎の治療では、普段からの食事や生活も大事であるが、薬剤に期待するところが大きく、中でもインターフェロンを用いた治療では副作用を心配される患者が多いことから、副作用の具体的な対策や服薬に関する注意点などを薬剤師から詳しく話すことになった。説明する際に

は、効果面で誤解を与えるような説明をしないこと、なるべくイラストを使用しわかりやすい言葉でゆっくりと話すように心掛けた。

当院でのインターフェロンの使用患者数は2004年以降から2014年2月まででのべ166人、テラプレビルは2011年11月の発売以降12人、シメプレビルは2013年12月の発売以降13人である。4年前の事前アンケートを行った際には、回答者の約25%がインターフェロン療法を実施していた。



図1. 第6回目の教室の様子

### 3. 結 果

開催後のアンケートの結果では、初めての方と5回目、6回目参加の方に大きく分かれた。約8割の方が「理解できた」「だいたい理解できた」と答えている。感想としては、「薬の作用・副作用が理解できた」「治療中なので理解しやすかった」「副作用についてわかりやすかった」「異常を感じた場合に早期に相談するよう心掛ける」「新薬が日々研究され患者としては安心、さらなる研究が進めばと思った」などの意見があった。

患者もインターネットや書物でよく情報を得ており、今回はインターフェロンを使わない薬物療法について質問があった。新しい治療については関心が高く、われわれも日々情報を収集し、正しく伝えていかななくてはならないと再認識した。

#### 4. ま と め

普段、薬剤師は外来患者に時間をかけて指導をする機会は多くない。医師からの依頼があった場合や患者から質問があった場合に個別に対応している。インターフェロンの初回で短期入院をする場合には病棟薬剤師が時間をかけて指導できるが、退院後はまた外来フォローとなるため、患者と深くかかわっていくのは難しいのが現状である。そのため、このような教室は、治療を始める前の患者や、実際に治療中の患者、治療が終わった患者などさまざまな状況の患者とかかわれる貴重な機会であった。今後もこのような教室を通して薬剤情報を発信し、患者と

かかわりを持ちながら副作用の早期発見につなげていきたいと考えている。

患者からの疑問や不安を傾聴できる場を設けて、その解消に努め、QOL向上につなげていきたい。

#### 文 献

- 1) 加藤真三 編. 肝臓病教室のすすめ—新しい医師・患者関係をめざして. 大阪：メディカルレビュー社；2002.
- 2) 富俊明, 鈴木壺知. 肝臓病のチーム医療と栄養療法—患者さんと医療スタッフのために. 大阪：メディカルレビュー社；2006.